

令和5年度学校評価 職員自己評価集計

流山市立長崎小学校

項目	No.	評価項目	5	4	3	2	1	合計	平均
学校運営	1	学校教育目標は適切で、具体的に図られているか。	7	27	7	0	0	41	4.0
			17%	66%	17%	0%	0%	100%	
	2	学校教育目標の具現化に向けて、教育実践に努めたか。	4	25	10	0	0	39	3.8
			10%	64%	26%	0%	0%	100%	
3	教育活動の運営に、教職員の意見が反映されていたか。	4	19	13	0	0	36	3.8	
		11%	53%	36%	0%	0%	100%		
4	教育活動の運営に、管理職や主任のリーダーシップが発揮されていたか。	11	23	6	1	0	41	4.1	
		27%	56%	15%	2%	0%	100%		
組織	5	公簿、表簿等は正しく処理されているか。	16	13	5	0	0	34	4.3
			47%	38%	15%	0%	0%	100%	
	6	個人情報の管理は、適切に行っているか。	18	18	5	0	0	41	4.3
			44%	44%	12%	0%	0%	100%	
	7	教育活動に必要な情報は、適切に教職員に周知されているか。	8	17	12	2	0	39	3.8
			21%	44%	31%	5%	0%	100%	
8	校務分掌の分担が適正になされ、意欲的に取り組んだか。	5	17	8	1	0	31	3.8	
		16%	55%	26%	3%	0%	100%		
9	教職員の相互理解がなされ、教育活動に協力し合って取り組んだか。	8	22	10	1	0	41	3.9	
		20%	54%	24%	2%	0%	100%		
10	日々の教育活動における問題や悩みを、気軽に話し合えたか。	11	21	9	1	0	42	4.0	
		26%	50%	21%	2%	0%	100%		
学習指導	11	指導方法を工夫して、各教科の基礎・基本の習得を図ることができたか。	2	23	7	0	0	32	3.8
			6%	72%	22%	0%	0%	100%	
	12	学習中の基本的な学習態度（話す・聞く態度、書く姿勢等）を育成できたか。	3	21	11	1	0	36	3.7
			8%	58%	31%	3%	0%	100%	
	13	全教育活動を通して、道徳的心情を養うことができたか。	1	18	15	1	0	35	3.5
			3%	51%	43%	3%	0%	100%	
14	体力の向上を考え、体育の授業をはじめ体育的活動を充実することができたか。	2	21	4	3	0	30	3.7	
		7%	70%	13%	10%	0%	100%		
15	タブレットや視覚覚機器を活用した授業を、積極的に展開できたか。	2	14	11	4	0	31	3.5	
		6%	45%	35%	13%	0%	100%		
16	読書活動の充実が図れたか。	1	15	10	4	0	30	3.4	
		3%	50%	33%	13%	0%	100%		
生徒指導・特別支援	17	基本的な生活習慣（言葉遣い、廊下歩行等）が身につけられるよう適切に指導することができたか。	1	23	15	0	0	39	3.6
			3%	59%	38%	0%	0%	100%	
	18	子ども達が自主的に挨拶ができるよう、継続的な指導を行ってきたか。	1	23	11	1	0	36	3.7
			3%	64%	31%	3%	0%	100%	
	19	子ども達の話に耳を傾け、寄り添い、充実した教育相談を行うことができたか。	4	25	8	0	0	37	3.9
11%			68%	22%	0%	0%	100%		
20	児童相互の好ましい人間関係が育つよう、児童間の関係づくりに努めたか。	4	26	5	0	0	35	4.0	
		11%	74%	14%	0%	0%	100%		
21	特別な支援配慮を必要とする児童への支援の手立てを考えて指導に当たったか。	2	23	9	1	0	35	3.7	
		6%	66%	26%	3%	0%	100%		
研修	22	校内研究組織が機能して、計画的に研修が実施されたか。	5	13	11	0	0	29	3.8
			17%	45%	38%	0%	0%	100%	
23	校内や校外における研修で得たものが、自分の教育実践に活かされたか。	2	19	12	0	0	33	3.7	
		6%	58%	36%	0%	0%	100%		
特別活動	24	学校行事の内容、時期等は適切であったか。	6	20	11	1	0	38	3.8
			16%	53%	29%	3%	0%	100%	
	25	学級活動は、年間計画に基づいて実施できたか。	4	18	7	0	0	29	3.9
			14%	62%	24%	0%	0%	100%	
26	児童会活動は、計画的かつ機能的に運営されたか。	6	16	7	0	0	29	4.0	
		21%	55%	24%	0%	0%	100%		
27	クラブ活動や委員会活動は、児童の自主的、自発的な活動となるよう指導ができたか。	8	17	6	0	0	31	4.1	
		26%	55%	19%	0%	0%	100%		
保健・安全	28	学級の環境（掲示・整理整頓）が適切で、清掃活動は行き届いていたか。	1	23	8	3	0	35	3.6
			3%	66%	23%	9%	0%	100%	
	29	児童の安全確保のための、手立ては適切に取られてきたか。	4	27	8	0	0	39	3.9
10%			69%	21%	0%	0%	100%		
30	健康面に配慮を要する児童に対して、適切に対処できたか。	5	24	7	0	0	36	3.9	
		14%	67%	19%	0%	0%	100%		
保護者地域	31	授業参観・懇談会では、経営方針や学級の様子を適切に伝え、信頼を深めることができたか。	3	18	8	0	0	29	3.8
			10%	62%	28%	0%	0%	100%	
	32	学校で起きた出来事について速やかに伝え、よりよい対応に努めることができたか。	5	20	3	1	0	29	4.0
17%			69%	10%	3%	0%	100%		
33	積極的に、地域の人材活用を図ることができたか。	2	12	10	2	1	27	3.4	
		7%	44%	37%	7%	4%	100%		
不祥事	34	いかなる不祥事も起こさぬよう、日々注意を払ってきたか。	21	15	8	0	0	44	4.3
			48%	34%	18%	0%	0%	100%	
	35	不祥事根絶に向けた研修は、適切に行われていたか。	19	19	4	1	0	43	4.3
44%			44%	9%	2%	0%	100%		
その他	36	各教科の備品や教材教具が適正に配備され、活用されていたか。	2	18	11	3	0	34	3.6
			6%	53%	32%	9%	0%	100%	
37	部活動は、協力して効果的に取り組めたか。	4	14	10	1	0	29	3.7	
		14%	48%	34%	3%	0%	100%		

## 【考察】

アンケート結果については、それぞれの回答への割合の他、とてもそう思う（5）、そう思う（4）、ふつう（3）、あまりそう思わない（2）、そう思わない（1）と数値化し、平均値する方法をとっています。

（1）～（4）は、学校経営について、（5）～（10）は、組織についての設問です。肯定群の回答が半数以上を占め、平均値でも概ね4程度となっており、組織として教職員が相互理解をしながら日々の教育活動にあたっていることが読み取れます。今後も本校の学校教育目標である「共に学び 共に生きる 子どもの育成」を常に念頭に置き、その具現化に向け、組織として教育活動に取り組んでまいります。「公簿・表簿等の処理」「個人情報管理」については、「とてもそう思う」の割合が他の項目よりも高く、多くの情報を扱う学校という職場において、個人情報ははじめ適切に情報を取扱う必要性について教職員が理解し誠実に職務にあたっていることが読み取れます。

（11）～（16）は、学習指導についての設問です。他の設問群に比べ厳しい評価となっています。特に、「全教育活動を通して、道徳的心情を養うことができたか。」「タブレットや視聴覚機器を活用した授業を積極的に展開できたか。」「読書活動の充実が図れたか。」については、「そう思う」の割合が半数程度占めていますが、「ふつう」「あまりそう思わない」と評価している職員もおり、特に低い評価となっています。学習指導の設問にある項目については、全ての教員が日々の取組の中で意識して指導をしている部分ではありますが、思うようにうまくいかない部分や目標とする部分までには達していないと評価した結果であると考えられます。タブレット端末の活用の幅をより広げたり、日々の授業を改善したりしながら、どの児童も主体的に授業に参加し、学習を進めることができる授業づくりに努めていきます。様々な活動が子供たちの人格形成につながっていることを念頭におき、教育活動全体での道徳教育や道徳科の時間をとおし児童の道徳性を養ってまいります。「読書活動」の項目については、保護者アンケートの項目においても評価が低く、学校での取組が家庭での読書を含めた児童の読書習慣に十分につながっていないように思われることから、引き続き、学校でも本に親しむ機会を増やし、読書習慣につなげていけるよう努めます。

（17）～（21）は、生徒指導・特別支援についての設問です。「児童間の関係づくり」「子供によりそった充実した教育相談」の項目については、約8割の職員が肯定的な回答をしています。これからもより一層児童理解に努め、一人一人の困り感や状況に寄り添った指導、児童一人一人のよさを見取り、認め、励まし、児童の自己肯定感が高まるような接し方をこれからも心掛けていきます。逆に、基本的な生活習慣については、全体平均と比較し低評価となっています。基本的な生活習慣は一朝一夕で身に付くものでなく、長期にわたり継続して指導する必要や家庭の協力が必要になってきます。今後ご家庭や地域のご協力を得ながら、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを粘り強く指導してまいります。

（22）（23）は研究・研修についてです。本校では、研究主題を「未来を切り拓く子どもたちを育てる 学びの在り方」と設定し、今年度は、モジュールの時間（はげみタイム・長小タイム）が児童にとって有効な学びの時間になるような学びの在り方について年間を通し考え、実践してきました。今後も、校内研究の中で得たものや校内外の研修で得

たものが、日々の教育活動に活かすことができるよう努めていきます。

(24)～(27)は特別活動についての設問です。これらの設問についても、肯定群の回答が半数以上を占め、平均値でも、概ね4程度となっている。学級活動や学校行事が計画に基づいて適切に実施されていることが読み取れます。運動会や長小まつりをはじめ、様々な行事や活動が児童主体の形で行われてきました。今後も、様々な活動が、児童の成長につながるような自主的・自発的な活動になるようにしていきたいと思います。

(28)～(30)は保健・安全についての設問です。「学級の環境が適切、清掃活動が行き届いている」の項目ですが、肯定群の回答が半数以上を占めているものの、全体平均から見るとやや低評価となっています。保護者アンケートの自由記述欄でも、学校の老朽化や掃除が行き届いていない点が気になるなどの御意見をいただきました。学校では、毎月1回、安全点検を行い、児童の安全な学校生活に向け危険な箇所を修繕するようにしています。今後も危険な場所や老朽化が目立つ場所を修繕しつつ環境美化に努めるとともに、児童自らも自分たちが使っている学校をきれいにしようと思える心を育てていきたいと思います。

(31)～(33)は保護者・地域についての設問です。9割近くの職員が「学校で起きた出来事について速やかに伝え、よりよい対応に努める」の項目に肯定的な評価をしています。しかしながら、保護者アンケートの同様の設問では、肯定的な回答が6割程度と、職員と保護者の回答割合に乖離がみられます。児童の成長には学校と家庭が両輪となって連携することが必要であるという考え方のもと、学級担任との日常的な連絡に加え、保護者の皆様からの相談については、教育相談担当職員による相談、スクールカウンセラーによる相談の機会を設け、対応してきました。今後も、児童・保護者の皆様のニーズに応えられるよう、対応を充実させるべく努力していきたいと思います。また、「地域の人材活用」については、低評価となっています。今年度も多くの地域の方々や保護者の方々にボランティアとなっていただき、教育活動を支援していただきました。今後も、様々な教育活動において、引き続き保護者や地域の方々のお力をお借りしながら教育活動を進めていきたいと思います。

(34)(35)は不祥事についての設問です。約半数の職員が「とてもそう思う」と回答し、8割以上の職員が肯定的な回答をしています。我々教職員は、教育公務員として不祥事は絶対に起こさないという考えのもと、日々の教育活動にあたってきました。今後も、全教職員が「とてもそう思う」という回答をする姿に近づけるよう、全職員が危機管理意識をもち、不祥事根絶を常に念頭に置きながら教育活動にあたれるよう、研修に努めていきたいと思います。